

今 金田菅原神社幸祭
年の主役は華やかな稚児行列

4月14・15日の2日間、金田菅原神社幸祭が催され、3基の山笠と神輿、旗行列が神社から御旅所までを往復しました。今年は約500年ぶりに鎮座したご神体の奉納を記念した稚児行列が催され、3～7歳の子どもたち20人が参加。華やかな稚児衣装をまとい、神妙な顔つきで歩く稚児さんに、沿道から「かわいい」と声が上がっていました。



↑「かっこいい?」慣れない衣装に緊張しながらもちょっぴり得意気な稚児さん。

↓狙いどおりに停止。今までの緊張した面持ちが一転、笑顔がこぼれます。



未 へいちく車両運転体験
来たる運転士が「出発進行」

鉄道ファンの夢をかなえるユニークなイベント「車両運転体験」が、5月3日に平成筑豊鉄道金田駅構内で開かれました。今までの参加資格は中学生以上でしたが、今回から保護者同伴の小学校3年生まで対象が広がりました。親子連れら20人の参加者は、実際の車両で約150メートルの構内を往復しながら、運転士気分を満喫していました。

↓雄大な福智山を望む中庭に設けられたお茶席で、一碗のお茶を楽しむ。



湯 ふじ湯の里「野点会と上野焼」
湯上がりに味わう日本古来の風流

伝統の茶道のおもてなしに、福智町が誇る温泉と上野焼がそろったぜいたくなひとときでした。ほうじょう温泉「ふじ湯の里」で「野点会と上野焼」のイベントが5月19日に開催され、小笠原古流の野点や上野焼協同組合青年部「巴会」による展示即売会が行われました。天然温泉でくつろいだ入湯客は、風雅な雰囲気を中心くまで楽しんでいました。

文 上野焼・渡久兵衛さんが町に寄贈
文化功労者・大樋長左衛門氏直筆の名作

平成16年の国民文化祭で記念作成した絵皿2点が、箱書きを加え、上野焼陶芸家の渡久兵衛さんから町に寄贈されました。成形と焼成は渡さん、絵は国の文化功労者で芸術院会員の大樋長左衛門さん（金沢市）が描いた貴重な大作です。日本の陶芸界の頂点に立つ大樋さんの絵と書、大樋焼と上野焼による名品を町の財産として収蔵しました。



↑鳥と鶴の絵皿・両作者の貴重な箱書きが、渡さんから町に寄贈されました。

↓日も落ちはじめた神社境内は、厳かな雰囲気。タスキがけ、手甲脚羊の優美な衣装で楽を打つ稚児。



地 南木菅原神社幸祭
域で守り抜く伝統の舞

5月2・3日に南木菅原神社の神幸祭が催され、農繁期に向けて豊作を願いました。きらびやかで凜々しいでたちの稚児たちが、神聖な雰囲気の中で獅子と共に舞います。第二次大戦中も中断することなく、保存会などは組織せずに南木地区で代々受け継がれてきたこの舞は、明治20年代に当時の青年たちが筑前（飯塚市庄内町）の綱分で習ったのが始まりだといわれています。その時に、綱分からの帰りの鳥尾峠でも復習したという逸話が今も伝わっています。

日 三町合併一周年記念俳句大会
日々の暮らしに四季を詠む五七五

5月10日に三町合併一周年を記念した俳句大会が行われ「隣保館・みのり句会」「福智町金田公民館俳句教室」「方城句会」の3つの教室から会員32人が参加。1人5句ずつの計160句が投句され、参加者全員による互選の部、岩井鬼童先生と池田一步先生による選者選の部で発表が行われ、それぞれ表彰されました。

〔町長賞〕岩井鬼童選
草笛の上手になりて転校す
花石かほる
〔西日本新聞社賞〕池田一步選
方位盤日傘に入れて沖を見る
米原ふさ枝



↑多数参加した記念大会、厳粛な中にも和やかな雰囲気が印象的でした。

↓心を一つにして跳びはねた、赤池中の大縄跳び「みんなでジャンプ」。



晴 町内の3中学校で体育会
晴れ渡った同じ空の下で

5月20日に町内の中学校(赤池中301人、金田中237人、方城中219人)で、体育会が行われました。各校ともブロック別に分かれて約20種目に一杯汗を流しました。白熱した競争のほか、保護者や教師も参加した楽しい競技、数か月前から自主的に練習した体操やダンスなどと盛りだくさんの内容に、惜みない拍手と歓声が送られていました。